

様式第 2 号（第 9 条関係）

会議録

会議の名称		令和 6 年度第 1 回ふじみ野市都市計画審議会					
開催日時		令和 6 年 5 月 2 4 日（金） 開会時刻 午前 1 0 時 0 0 分 閉会時刻 午前 1 1 時 0 0 分					
開催場所		ふじみ野市役所 本庁舎 5 階 A 大会議室					
出席した者の氏名		役職名	氏名		役職名	氏名	
		会長	井上 桂一		市長	高畑 博	
		委員	玉田 勝彦		副市長	福島 浩之	
		〃	白戸 翔		事務局	山風呂 敏	
		〃	寺島 拓幸		〃	田中 崇允	
		〃	久保田 清		〃	城田 一伸	
		〃	田中 早苗		〃	芋川 正臣	
		〃	島田 和泉		〃	齊藤茉由子	
		〃	加藤 恵一				
		〃	民部 佳代				
会議の議題		別紙「会議の議題」のとおり					
会議の公開又は非公開の別		公開					
会議の非公開の理由							
傍聴人の数		0 人					
会議の内容		別紙「会議の要旨」のとおり					
会議資料		別添のとおり					
事務局		都市政策部都市計画課					
議事の確定	確定年月日	令和 6 年 6 月 2 0 日					
	記名押印 又は署名	役職名					
		会 長 井上 桂一					
		署名人 寺島 拓幸					
署名人 加藤 恵一							

【会議の議題】

- ・ 審議事項
意見聴取 ふじみ野市立地適正化計画の策定について

【会議の要旨】

意見聴取 ふじみ野市立地適正化計画の策定について

①資料に基づき担当課により説明

②説明に対する主な質疑

○「防災指針において、ハード・ソフト対策の両面から適切な防災・減災対策を定めること」となっており、「防災指針の内容によっては、『今後』居住誘導区域が見直される可能性がある」となっているが、『今後』とはいつなのか。

→次回の都市計画審議会の際に、防災指針については説明予定である。また、居住誘導区域の設定については、立地適正化計画を令和7年3月に策定するまでの間に見直しを行う可能性があるものである。

○荒川調節池整備による効果を基に、居住誘導区域を見直す時期はいつ頃なのか。

→現在、シミュレーションが公表されていないため、検討は行わないが、荒川調節池が整備され、その効果について、シミュレーションが示された暁には、立地適正化計画の見直しの際に検討する。

○公共交通の利便性が高い基幹的公共交通（日30本以上の運行頻度（概ねピーク時片道3本以上に相当）の鉄道路線及びバス路線）と示されているが、バス路線について、本数が多いというだけで本当に「利便性が高い」と言ってしまうと良いのか。現状、バス路線について、東武東上線の線路付近では大渋滞が起きており、時間によっては、通常の3～4倍程度時間がかかることがある。計画を策定するにあたって、このような課題があると思うが、改善する計画等はあるのか。

→立地適正化計画の策定にあたっては、公共交通に係る方針も検討する予定である。公共交通の課題を解決する施策として、当課で管轄するふじみん号とシェアサイクルについて位置付け、持続可能な公共交通を維持していくことを計画に盛り込む予定である。

また、それ以外に市内の混雑解消に資する施策を計画に盛り込むことができるか検討する。また、東武東上線改善対策協議会で、志木駅以北の複々線化を東武鉄道株式会社に対して、要望しているところであり、引き続き要望を続けていきたい。

③説明に対する主な意見

○現状、本市は、仕事をする場のうち商業系は充足しているが、工業系が他市と比較しても少なく、昼間の人口減少が高い状況にある。その中

で、都市機能誘導区域や居住誘導区域を設定するにあたって、このような課題を含めて検討しているかどうか、今の段階では見受けられない。

- 公共交通の点としては、拠点間は公共交通で結ばれ、生活利便性が高いとの記載があるが、バスルートによっては道路混雑により、利便性が低くなってしまうというような公共交通に関する課題は明らかだと感じる。移動時間が短いというのは、都市の魅力に関わることであり、重要である。しかし、今後想定されるリスクには、この課題に関する内容の記載がないため、明示が不足しているように思える。
- どのようなものが誘導施設になるのかや、今後流入される商業・工業等は何のようなものなのかが市民としては注目する点だと思う。
まちづくりの課題・整理で、20～30歳代の転入が多いと示されているが、子育て機能・商業機能・医療機能等がどのようにリンクしているのか、資料として見えてこないのは不安な要素だと感じる。誘導施設の設定にあたっては、流入意欲を阻害することがないような計画書にするよう留意が必要だと考える。
- 東部地域は、比較的水害リスクが高く、浸水想定区域（計画規模）の災害リスクが高いエリアに隣接している居住誘導区域があるが、そこに人口が集積した場合、避難行動をする際に、都市機能として安全性は大丈夫なのか。
また、西部地域は、水害リスクが低いにも関わらず、市街化区域は関越道の東側に限られており、都市機能として満足いくのかどうか。
ふじみ野市の将来像を決定していくための要素となるため、都市の安全性に焦点を置いてほしい。